

新型コロナウイルス感染拡大前後の
年代別アルコール摂取頻度・量の変化
(ZRF study 第32報)



長濱さつ絵^{1,2}、堀愛³、坂本宣明⁴、大崎陽平⁴、道川武紘²、朝倉敬子²、西脇祐司²

¹全日本労働福祉協会、²東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野、³筑波大学医学医療系国際社会医学研究室、⁴ヘルスデザイン株式会社

新型コロナ感染症流行時に、アルコール摂取頻度・摂取量は
若年男性で二極化した可能性が示唆された

【目的】新型コロナウイルス感染症流行による飲酒量の変化は少ないとする報告が多いが、その変化は年齢や性別ごとに異なるとする報告もある

本研究では、2018年度から2020年度の職域健康診断データを用いて、3年間の飲酒頻度と量を、年齢別・性別に報告する

【方法】

対象者：2018年度、2019年度、2020年度に全日本労働福祉協会で健康診断を受けた20歳以上の受診者（男性218,692人、女性112,508人）

アルコール摂取習慣の評価：健康診断問診票を用いた

- ・摂取頻度：毎日飲む、時々飲む、ほとんど飲まない・飲めない
- ・一回あたりの摂取量：1合未満、1～2合未満、2～3合未満、3合以上
- ・摂取量については毎日飲む、時々飲む人を解析

*問診票が毎日、時々の人のみ回答する様式のため

摂取頻度と摂取量の割合を、各年ごとに、年代別・性別に算出
年齢は20代、30代、40代、50代、60歳以上に分けた

【結果・まとめ】

摂取頻度の結果

- 毎日飲む人の割合
 - ・男女とも若年者で増加、50代以降で微減
 - ・増加の割合は若年者で大きかった

ほとんど飲まない・飲めない人の割合

- ・全年代で男女とも増加
- ・増加の割合は若年者で大きかった

1回あたりの摂取量の結果

- ・毎日飲む20代30代の男性で3合以上の割合が微増
- ・時々飲む人では全年代・性別で1合未満が増加、3合以上が減少
- ・特に、時々飲む習慣の中高年以降の女性では飲酒量は減少傾向

【結果・グラフ】

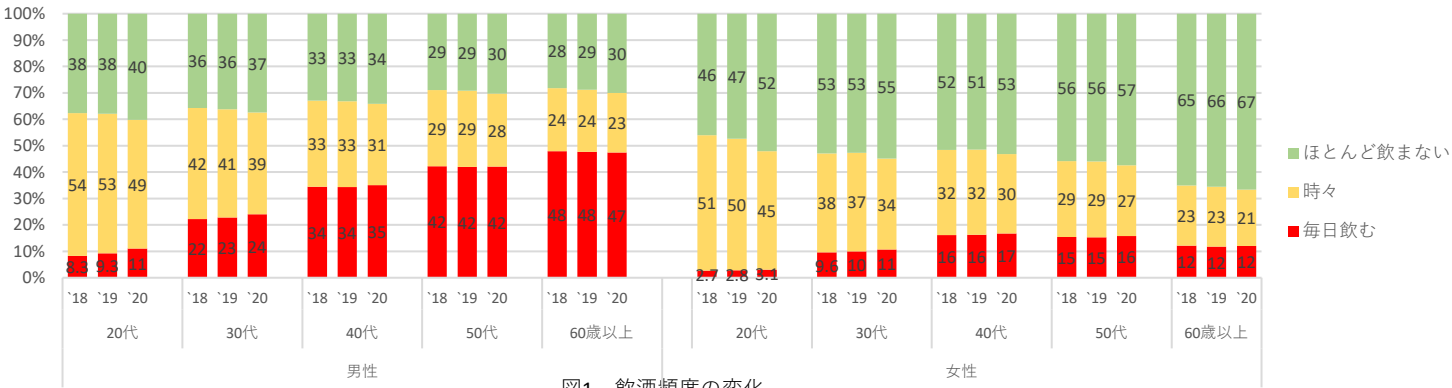


図1. 飲酒頻度の変化

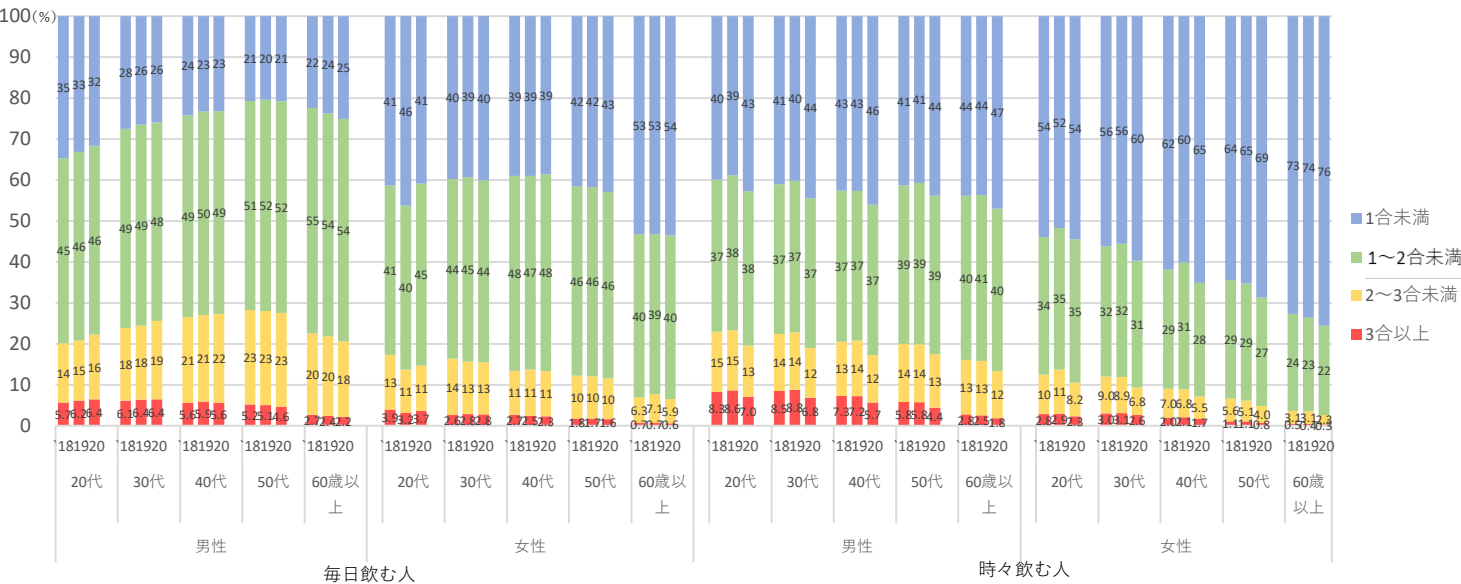


図2. 飲酒量の変化

【考察】

新型コロナ感染症流行期間を含む3年間の飲酒習慣について報告した。新型コロナ感染症流行後、各年代で飲酒者割合（「毎日飲む」＋「時々飲む」）が減少したが、若年の男性では「時々飲む」が減少し「ほとんど飲まない」と「毎日飲む」者が増加するといった二極化傾向が見られた。さらに「毎日飲む」者では1回に3合以上飲酒すると答えた割合が増加していた。飲酒習慣の3年間の変化が、感染症流行によるものか、年齢によるものかなど、今後の検討が必要。